

AutoCAD LT では、印刷もしくは PDF 化をする際に、あらかじめ、設定をしておく必要があります。  
このマニュアルと共にダウンロードした印刷設定ファイルを使用することにより、設定の手間を省くことができます。  
ここでは、その印刷方法を記載します。

## 印刷の設定

まずは印刷の設定をおこないます。これは初回のみで、これ以降、行う必要はありません。

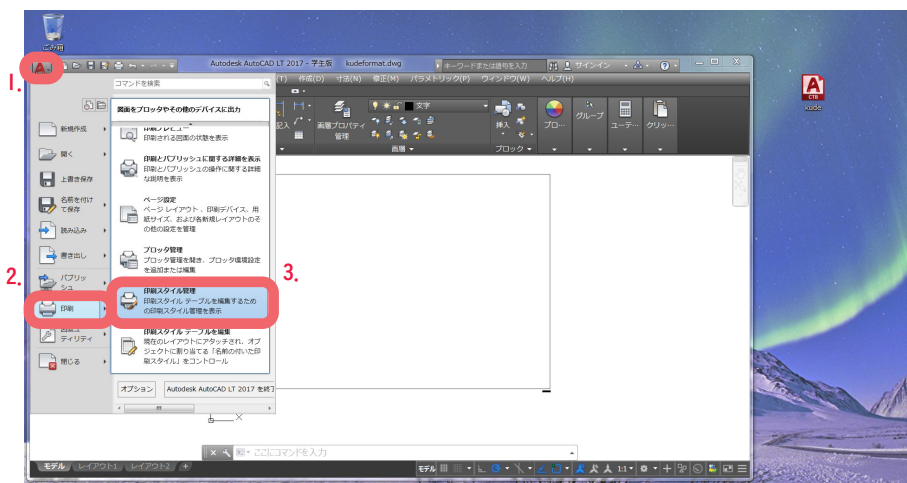
### ● ダウンロードしたファイルの確認

このマニュアルと共に、次の 2 つのファイルがダウンロードできているか確認しましょう。

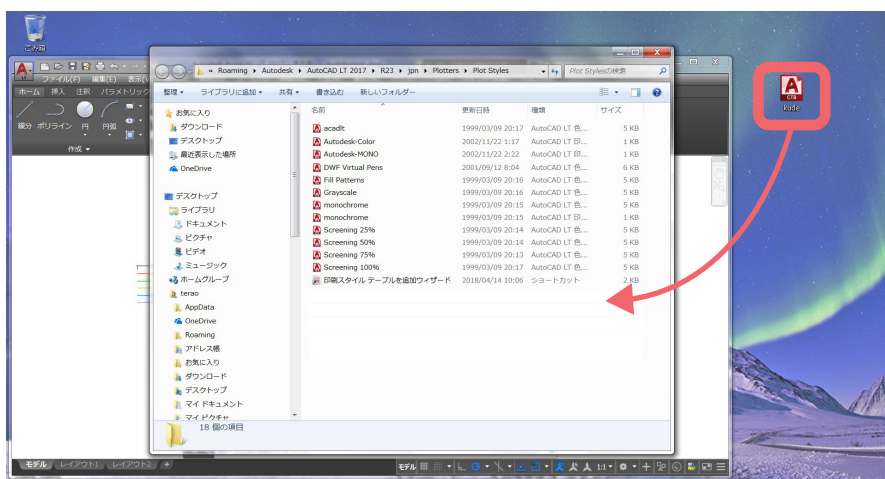
- **kudeformat.dwg** ----- 図面フォーマットです。今後も使用するファイルで、このファイルに図面を描いていきます。
- **kude.ctb** ----- 印刷の設定ファイルです。

### ● 「kude.ctb」ファイルを移動する。

印刷の設定として、ダウンロードした「kude.ctb」ファイルを以下の手順にて、「Plot Styles」というフォルダへ格納します。



AutoCad LT を立ち上げ、「印刷スタイル管理」をクリックする。



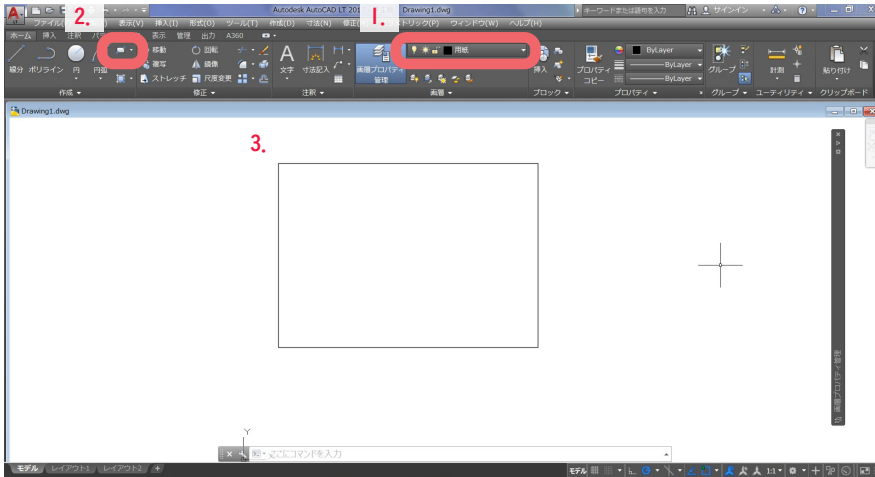
「Plot Styles」フォルダが開くので、このフォルダに kude.ctb ファイルを移動（格納）します。

ファイルを移動（格納）したらフォルダを閉じて構いません。

## 印刷（およびPDF化）のしかた

### ● 用紙枠を描きます。

kudeformat.dwg を開くと、「A3 サイズ横」(420×297mm) の用紙に縮尺「1/50」の図面を描くための用紙枠が既に描かれています。1/50 以外の図面を描く場合は描かれている用紙枠を削除し、以下を参考に四角形を描いてください。



1. 画層を「用紙枠」にする



2. 四角形ツールを選び



3. 下表の大きさの四角形を描く

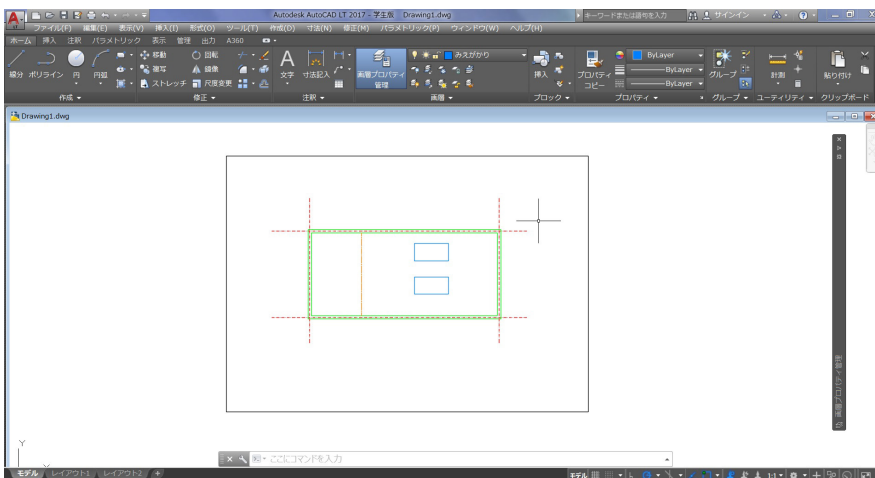
縮尺	四角形サイズ [mm] (用紙枠)
1/10	4,200 × 2,970
1/20	8,400 × 5,940
1/30	12,600 × 8,910
1/50	21,000 × 14,850
1/100	42,000 × 29,700
1/200	84,000 × 59,400

### ● 図面を描きます

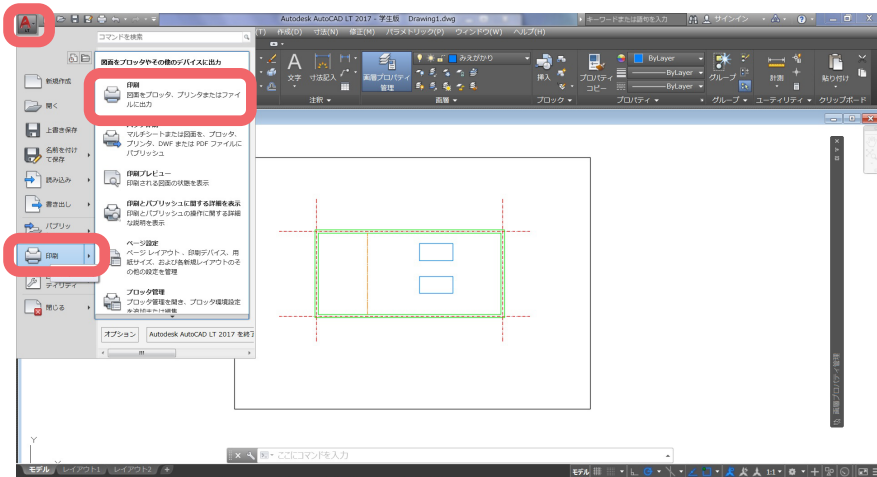
適切な画層と線種にて、作図しましょう。

※作図は原寸で描きます (1/50 の図面でも 1/1 で描く)。

※図は枠外で描いても構いません。印刷時に必要な情報を用紙枠内にレイアウトします。



● 印刷（および PDF 化）をする



1. プリンタを選択

※PDF の場合は、AdobePDF もしくは AutoCAD PDF を選択

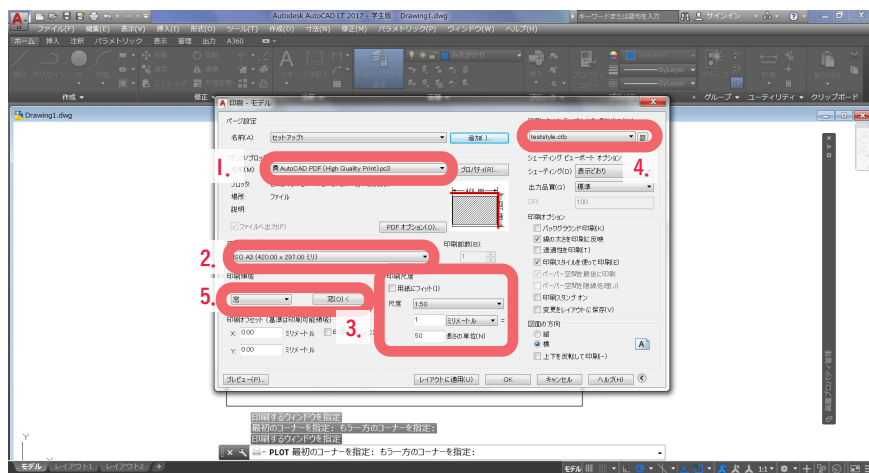
2. 用紙を選択：A3 を選択

3. 尺度を設定：「用紙にフィット」のチェックを外し、1/50 の尺度を選択

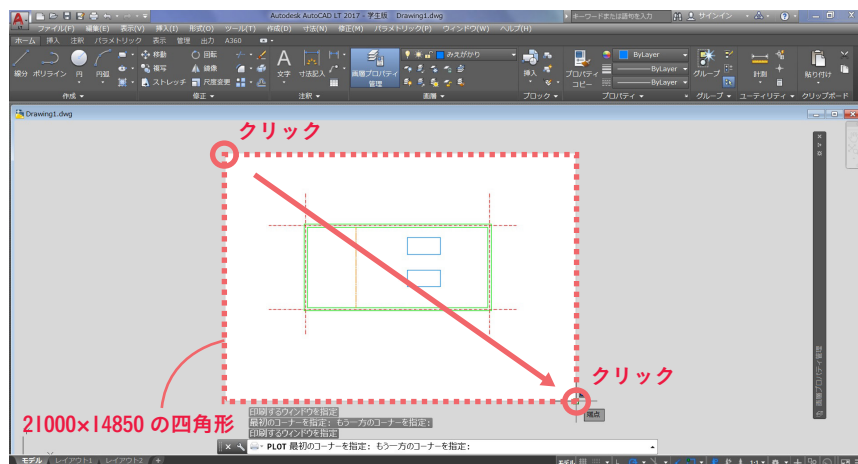
4. 印刷スタイルテーブル：kude.ctb ファイルを選択

5. 印刷領域の設定：印刷対象をクリックし、「窓」を選択します。「窓」になっている場合には、右の「窓」ボタンをクリックします。

→モデル空間画面（※1）に切り替わる

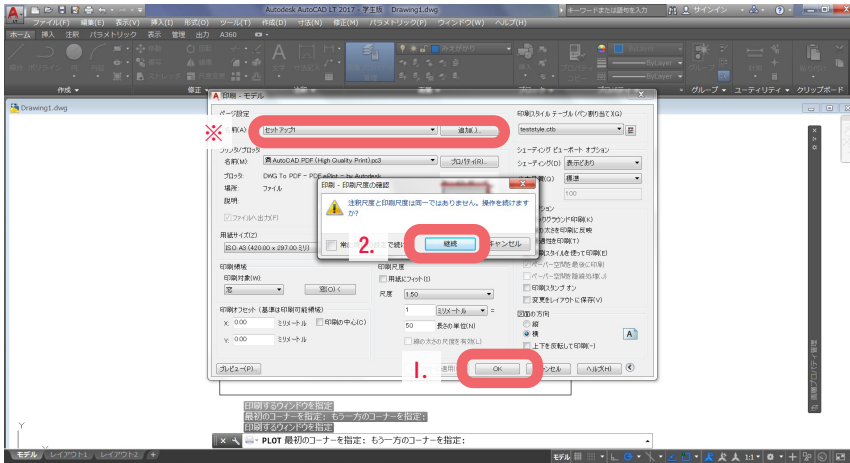


※1



モデル空間に描かれている枠を選択。

→選択すると印刷設定画面に戻る

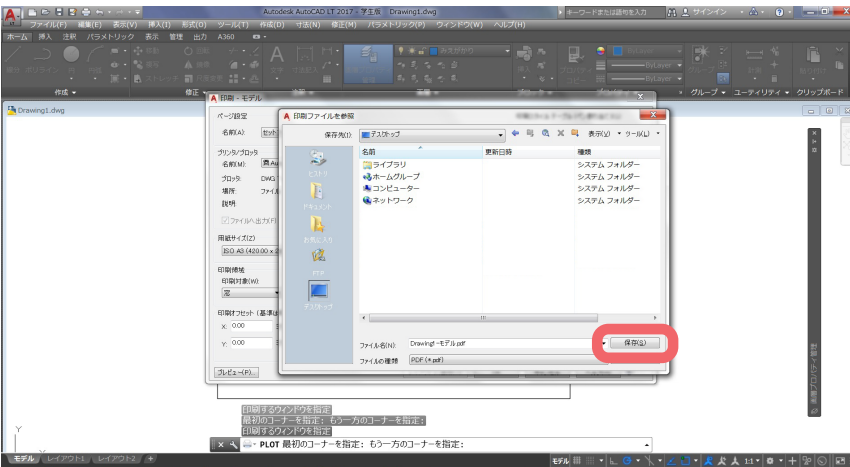


※名前をつけて保存すると、次回から同じ印刷の設定になります。

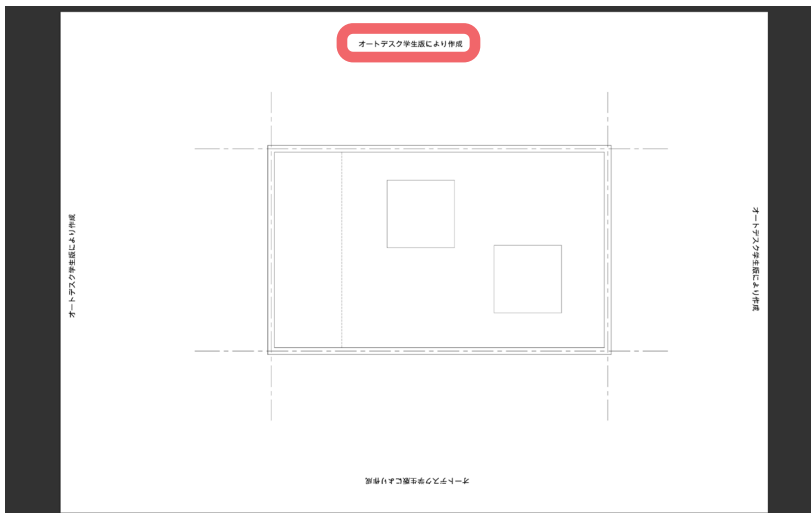
1. OK をクリック



2. 尺度の確認画面も「継続」をクリック



ファイル名を入力し「保存」をクリック。  
PDF データとして保存されます。



※印刷すると「透かし」と言われる文字が自動的に印刷されます。

(2019 年度版から再導入)

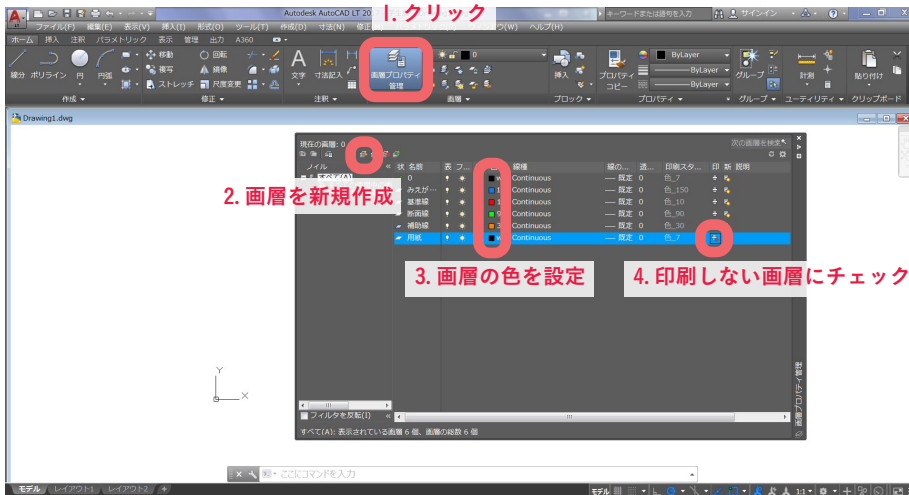
印刷設定では消去できませんので、ここでは無視して下さい。

## 自分で、新規に画層や線種を追加する場合

kudeformat.dwf データをベースとして課題を進める上で、基本的には線種を追加する必要はありませんが、新たに画層や線種を追加・設定する場合には以下の方法でおこなうことができます。

### ● 新規に画層を作成する

画層を作成することで、図面を描く際に必要となる線種を区別することができます。



1. をクリック。

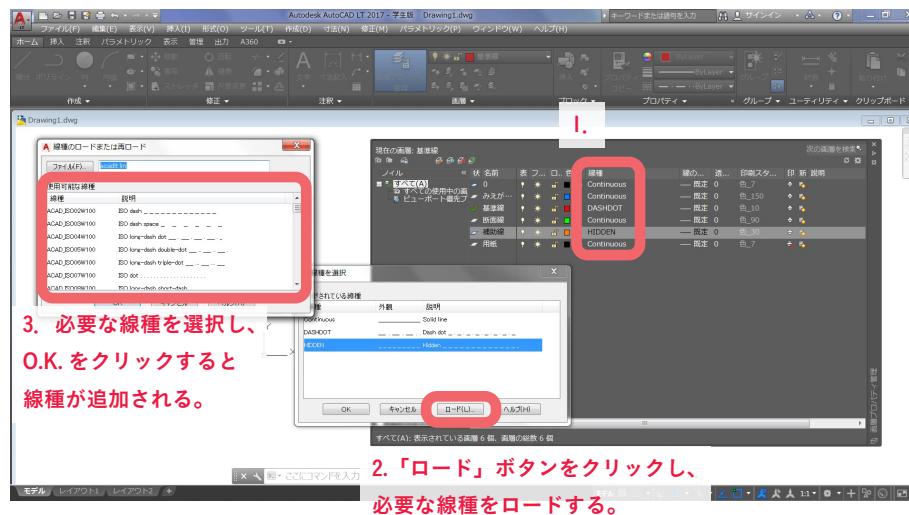
2. をクリック。

画層が作成されるので名前を入力する。

3. をクリックして色を設定する。

印刷しない画層は、4. の印刷ボタンをクリックして印刷不可に設定する。

### ● 画層の線種を設定する



1. プロパティ管理画面から、変更する線種をクリック。

線種を選択する画面が表示される。

2. ロードをクリックして、

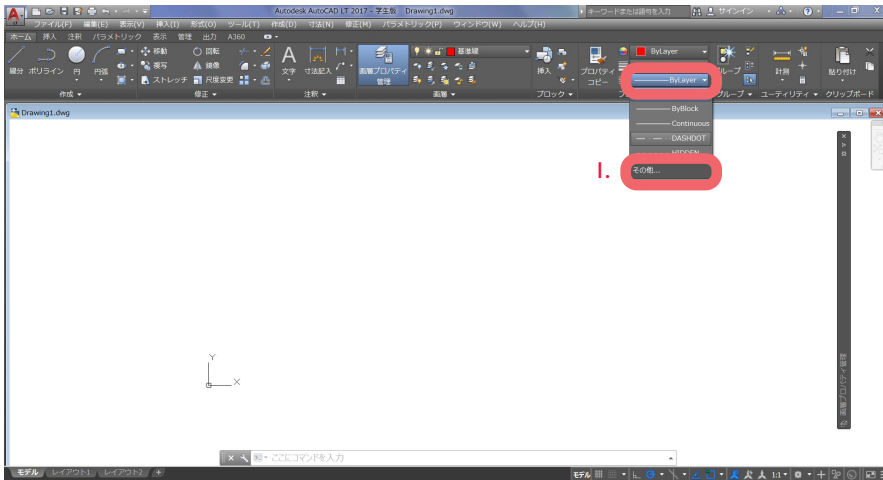
3. 必要な線種をロードする。

ロードしたら、改めて線種を選択して O.K. をクリック。

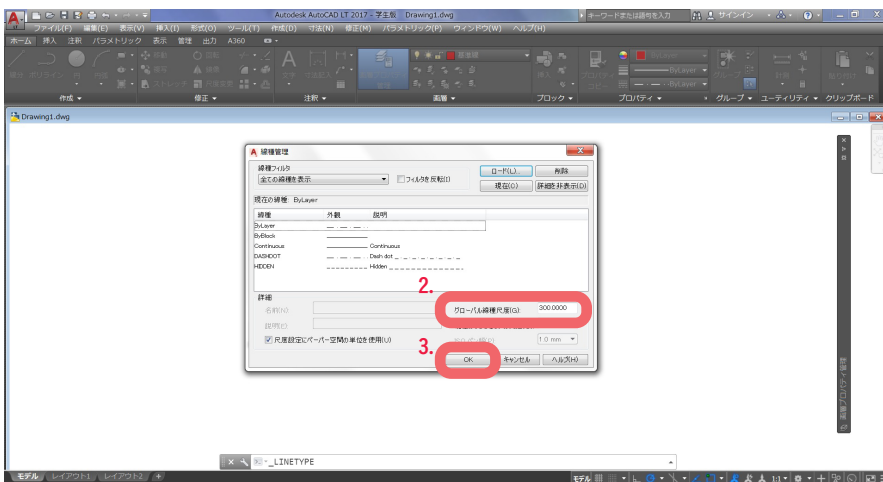
※線の太さは印刷設定で管理するので、ここでは設定しない。

● 線種のグローバル尺度を設定する。

グローバル尺度とは、破線などの間隔を編集するための尺度です。kudeformat は、尺度「200」で設定していますが、ロードした線種に合わせて、変更が必要な場合に操作します。



1. 線種をクリックして「その他」を選択する。

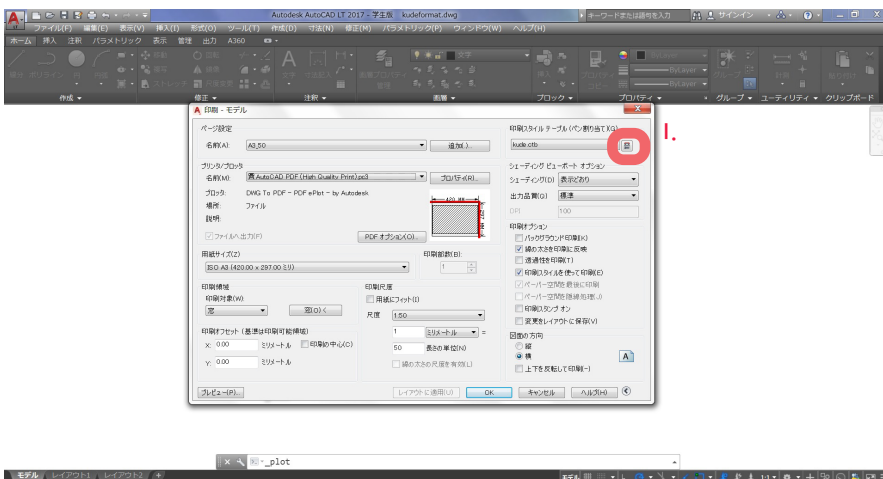


2. 線種管理画面が表示されるので、グローバル尺度に任意の数値を入力する。

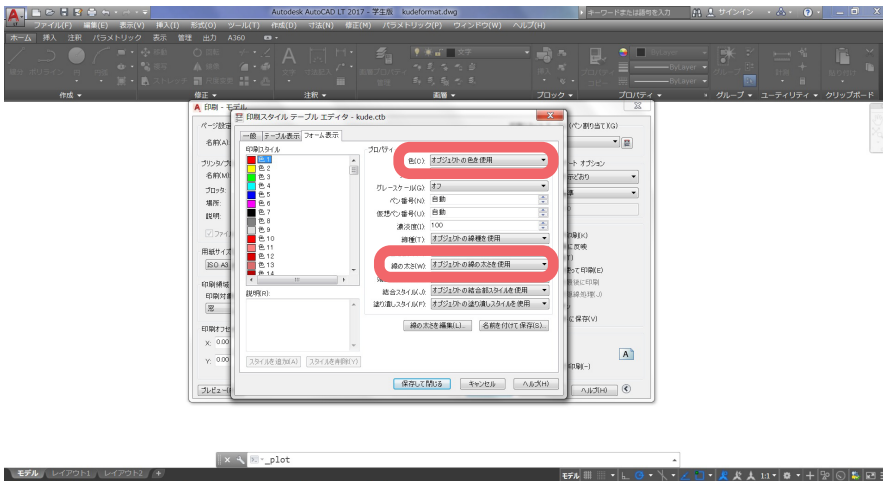


3. OK をクリック

● 印刷スタイル (kude.ctb) を編集します。



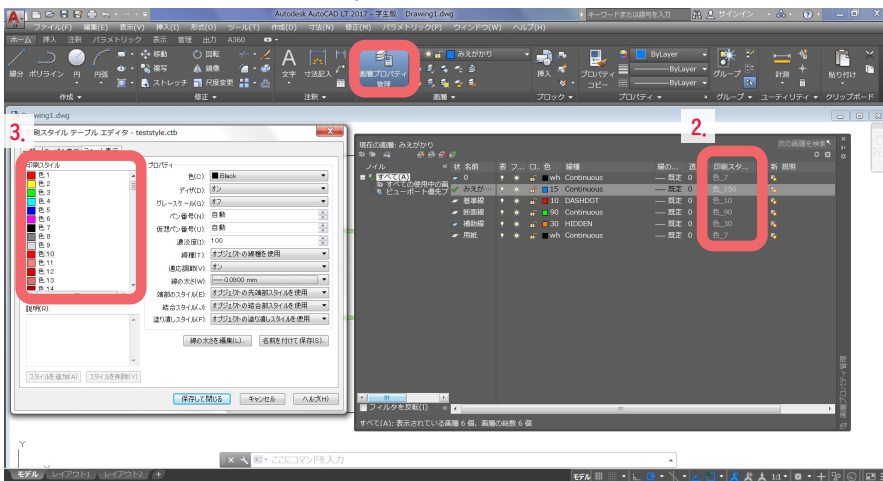
印刷スタイルが「kude.ctb」となっていることを確認し、1. のボタンをクリックする。



新規に作成した画層の色番号を選択し、プロパティを編集します。

編集が終われば「保存して閉じる」をクリックします。

● 新規に作成した画層の色番号がわからなくなった場合は、画層プロパティ画面で確認しましょう。



1. をクリック。

2. の「印刷スタイル」に、各画層の色番号が表示されています。

3. の印刷スタイルで、編集したい色番号をクリックして、プロパティを編集します。

※ここで設定するプロパティの「色」は出力時の線の色となります。全て「black」に設定しましょう。

※線の太さは任意に編集します。

kude.ctb で設定されている線の太さ：基準線→0.05、太線→0.15、中線→0.09、細線→0.05、破線→0.09

実際に出力した図面を見ながら、線の太さを調整しましょう。